別添４－１７

令和３年度　厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究

研究分担者　　杉浦　健之　名古屋市立大学大学院医学研究科　教授

研究要旨

痛みセンターは、学際的痛み診療を提供する拠点病院の一つとして慢性痛患者を受け入れている。本調査では、2021 年 4～6 月に当センターへ紹介のあった慢性痛患者 20 名を対象とした。慢性痛患者像と、実際に提供した多職種介入を整理し、各患者像に見合った介入が提供できているか評価した。学際的痛みセンターへ紹介のあった半数以上の患者が「集学・学際的介入が必要」に分類され、そのほとんどに多職種介入が行われていた。一方、集学・学際的介入の必要性が少ない患者、特に「器質的疾患を扱うクリニック」での介入が必要とされる患者も多く紹介されている現状が明らかになった。

A．研究目的

日本における慢性痛及び難治性疼痛に対する集学的慢性疼痛診療システムの有効性と必要性を明らかにし、さらに診療体制普及の適正化や効率化を図ることが急務である。そのために、連携施設から紹介された慢性痛患者の診療データを取得・蓄積し、データを活用して慢性痛患者の特性を調べている。

当院いたみセンターは、学際的痛み診療を提供する拠点病院の一つとして慢性痛患者を受け入れている。本調査では、当科に紹介された患者像と、実際に提供した多職種介入を整理し、各患者像にあった介入が提供できているか評価することを目的とする。

B．研究方法

2021 年 4～6 月、当科への慢性痛紹介患者 20 名を対象とした。診療録から①紹介元、②慢性痛診断（ICD-11）、③器質的・精神心理的要因レベル、④学際的痛み診療の関与、を後ろ向きに調査した。なお③の分類判定には K-S 要因ツール（e.g.，青野，2019）を用いた。学際的痛み診療の関与は、ペインクリニック、精神科、理学療法、心理、看護の介入の有無で判定した。

（倫理面への配慮）

個人を同定できるデータは用いず、項目毎にまとめた施設内のデータ紹介にとどめているため、倫理面の問題はないと判断した。

C．研究結果

3 ヶ月の期間に学際的痛みセンターを受診した慢性痛患者は、県外 2 名を含む 13 名が院外、7 名は院内からの紹介であった。診療科は内科（4 名）、整形外科、ペインクリニック、脳外科、歯科（各 3 名）からが多かった。診断名としては、慢性一次性疼痛（13 名）が最も多く、慢性術後及び外傷後疼痛、慢性二次性筋骨格系疼痛、慢性神経障害性疼痛（各 2 名）が続いた。対応すべき医療機関分類は、「プライマリ・ケア」（1 名）、「器質的疾患を扱うクリニック・高度医療機関」（5 名）、「精神心理的疾患を取り扱うクリニック・高度医療機関」（0 名）、「集学・学際的介入が必要」（12 名）、その他（2 名）であった。5 名が慢性痛の患者教育などを行い初診で終診となっており、15 名が継続の方針となっていた（2 名受診せず）。K-S 分類で「集学・学際的介入」が必要とされた 12 名は 2～4 職種の介入が行われていた。

D．考察

効率よく、早期に専門治療へ繋げる対策が

必要と考えられた。そのために、クリニック等での多角評価を充実させていく教育が課題に挙がった。

患者ごとに、必要とする、適切な医療機関へ紹介できるように、地域連携の強化とシステム化を進める必要性がある。

E．結論

学際的痛みセンターへ紹介のあった半数以上の患者が「集学・学際的介入が必要」に分類され、そのほとんどに多職種介入が行われていた。一方、集学・学際的介入の必要性が少ない患者、特に「器質的疾患を扱うクリニック」での介入が必要とされる患者も多く紹介されている現状が明らかになった。

F．健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載。

G．研究発表

1. 論文発表

1. 酒井美枝、 杉浦健之、 永田富義、 青木晃大、 近藤真前．薬物療法に併用してアクセプタンス&コミットメント・セラピーを実施した慢性二次性筋骨格系疼痛の一症例．慢性疼痛 40(1)・131-137・2021

2. 学会発表

1. 太田晴子、杉浦健之ら．混合性結合組織病に合併した三叉神経障害の症状緩和に星状神経節ブロックが有効であった一例．日本ペインクリニック学会第 55 回学術集会（2021.7.22-24、富山、ハイブリッド）
2. 永田富義、近藤真前、藤掛数馬、太田晴子、青木晃大、杉浦健之．痙性斜頸に対して集学的治療が奏功した一例．　第 14 回日本運動器疼痛学会　（2021.11、WEB）
3. 杉浦健之ら、顔認識アプリを用いた痛みの表情解析．第 43 回日本疼痛学会（2021.12.11、WEB）
4. 酒井美枝、杉浦健之ら．反すう軽減とセカンドライフの充実にアクセプタンス＆コミットメント・セラピーが有用であった一次性慢性痛．第 51 回慢性疼痛学会（2022.2.19-20、WEB）
5. 酒井美枝、杉浦健之ら．当院いたみセンターに紹介された慢性痛患者像の把握と多職種介入内容の検討．日本ペインクリニック学会第 2 回東海・北陸支部学術集会（2022.2. 26、WEB）
6. 加藤利奈、杉浦健之ら．治療に難渋した硬膜穿刺後頭痛の褥婦に対し当帰芍薬散が有効であった 1 症例．日本ペインクリニック学会第 2 回東海・北陸支部学術集会（2022.2.26、WEB）

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得
   なし
2. 実用新案登録
   なし
3. その他
   なし